
好きではないあなたと付き合う理由

S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きではないあなたと付き合う理由

【Nコード】

N6921P

【作者名】

S

【あらすじ】

僕はあなたを好いてはいないが、付き合っている。この景色を見ながら、少し散歩しようか。

(前書き)

好きや嫌いだけじゃないんだぜ

山は紅葉の死化粧。

あなたは、これから死に逝く為に赤く熟した葉を見て、「キレイ！」と形容した。

僕は景色を損ねない為にそっけなく返事をしたが、心の底では強く同意していました。

あの葉達は役目を終えたから、この世から消えていく。

老兵は死なず、ただ消え去るのみ。

さよならだけが、美しい。

少し、この景色を見ながら散歩しようか。

僕は、別にあなたの事を好いてはいなかった。

それでも、運命は、感情と別次元で作用しているから、あなたと僕はお付き合いをする事になりました。

申し出たのは僕からです。これっぽっちも好きではなかったが。

しかし、時間を共に過ごしていく内に、明るく元気なあなたに少し気持ちに移ろいでいきました。この景色のように。

死臭漂う僕も、あなたの影に隠れてしまえば、きつと臭わない。

これが運命というモノ。

僕の気持ちとは裏腹に、僕達は違和感なく、風景に恋人として溶け込んでいます。

彼女と話す時間”は”好きでした。

無口な僕に対して、あなたは職場での出来事や、自らの友人の事を嬉々として話しては一人喜んでいる。

僕はその内容を3歩歩いたら忘れたが、それでもあなたに話しかけてもらう事を楽しんでいました。

なんだか気分がよくなってきたので、僕からも話題を提供する事にしました。

あなたが話すのをさえぎって、「美しいって何だと思う?」とあなたに聞いた。

すると「イケメン!」。速攻でした。

あなたがV6の岡田くんファンな事を今、思い出しました。

しかし僕はね、芸能界にイケメン・美女として君臨するような、ケチのつけどころが無い顔は好きじゃない。

ああいう整った顔立ちっていうのは確かに綺麗だ。美しい。完璧だろう。

しかし、欠けた魅力っていうものが無いじゃないか。

どこか崩れていた方がよりそらないか、だって、欠けた魅力っていうのは独占欲を満たしてくれる。自分”だけ”のモノのような気がしないか。

その欠けた魅力こそ、真の・・・

「デユクシ!!!!!!」

(。。。)。。。
クシャミでした。

「あゝ、ねえ、少し寒いよう」

僕はこの話題を閉める事にした。

無言で5分程歩きました。

気を取り直して、もう一つ話題を提供する事にしました。

いつか恋人と語り合わなければいけない、愛について。

「ねえ、愛って何だと思う?」と尋ねました。

お互いの価値観は同じモノか、そうでなくとも近いモノであるか確認する大事な話です。

答えがあなたと近いといいな、同じだと面白いなと期待を膨らましていた。

あなたのことはこれっぽっちも好きではなかったが。

しかし、とても大事な話題にも臆せず、やはり速攻で「うーん、信じる事！」と応じてくれました。

その返事のスピードだけは満点でした。

あなたらしい稚拙でストレートな答えだなあ・・・。

しかし、僕はね、愛というモノは”静寂”だと考えているんだよ。

言葉も必要とせず、ケンカもせず、理由も必要ない、それでも共にいる。

親と赤子の間に言葉が不要な様に、言うまでもなく僕の意味を汲んで欲しい。

あなたが間違っつていようとも、あなたがそれでいいなら、僕は意見せずあなたの意思を尊重しよう。

静寂、すなわち愛を持って。

僕はあなたに自分の考えている愛を説明しました。

無口なはずの僕の口が、この時ばかりは違った。

だって、とても大事な話なんだからね。あなたにはしっかりと理解してもらわなくちゃ。

僕は必死でした。

あなたを好きになろうとしていたのかもしれない。

ここであなたがなるほど！その通りだ！と改心してくれるならば、

僕はあなたを好きになれそうです。

人前で手を繋ぐ事は恥晒しだと考えている僕ですが、あなたが改心してくれるならば指を交差させ手を繋ぎ、スキップくらいはしてやるよ。

あなたはこう答えました。

「難しく何言っているわかんない！」

もうすぐあの山の葉も散り、冬が訪れるでしょう。

僕は寒いのが苦手だが、冬が来るのはしょうがない事です。

誰も抗えない。運命ですから。

冬までもう少し時間があります。

もう少しの間、暖まっていいかな。
さよならだけが、美しい。

(後書き)

読んでくれてありがとうございます、感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6921p/>

好きではないあなたと付き合う理由

2010年12月31日07時10分発行